

岩手山の火山活動解説資料（令和8年9月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

2024年以降、山体膨張を示す地殻変動や火山性地震の増加が観測される等、火山活動の高まりが認められましたが、2026年7月下旬以降は概ね静穏に経過しています。

想定火口内では、火山灰、火山ガス、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。特に大地獄谷付近では、火山ガスの噴出や地熱の高まりがみられていますので注意が必要です。

火山活動に十分注意し、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1-②③、図2～3）

黒倉山付近や山頂付近を震源とする火山性地震は2026年7月中旬以降、少ない状態が続いています。山頂やや深部の低周波地震¹⁾は、2024年12月中旬頃から増減を繰り返しながらも発生頻度がやや高い状態で継続しています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした。

- 1) 東岩手山では、山頂のやや深部（深さ6～9km付近）において、低周波地震の活動が認められます。この低周波地震の活動は、火山活動が静穏な状況下でもみられ、連続して発生することもあるため、噴火警戒レベルの判定基準に含めないこととしています。

・噴気など表面現象の状況（図1-①、図4～6）

黒倉山監視カメラによる観測では、6日、18日及び20日に大地獄谷で100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね80m以下で経過しました。また、大地獄谷では2023年及び2024年と比較して2025年4月以降、非地熱域より温度が高い領域がわずかに拡大した状態を維持していますが、更なる拡大は認められません。

柏台監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は30日に一時的に10mを観測しました。長山篠川原監視カメラによる観測では噴気は認められませんでした。岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

・地殻変動の状況（図7～8、図10）

傾斜計やひずみ計で5月24日頃から山体膨張を示すと考えられる地殻変動が観測されていましたが、7月下旬以降停滞しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年10月分）は令和8年11月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

○ 活動評価

岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS 連続観測で 2024 年 2 月頃から 2026 年 4 月頃にかけてみられていた山体の深いところの膨張を示す地殻変動や 2026 年 5 月下旬から 7 月中旬にかけて観測された山体膨張を示す地殻変動は、現在停滞しています。また、火山性地震も 7 月中旬以降、少ない状態が続いており、その他の観測データにも、火山活動の高まりを示す変化はみられていません。

以上のことから、火山活動は、7 月下旬以降は概ね静穏に経過しています。

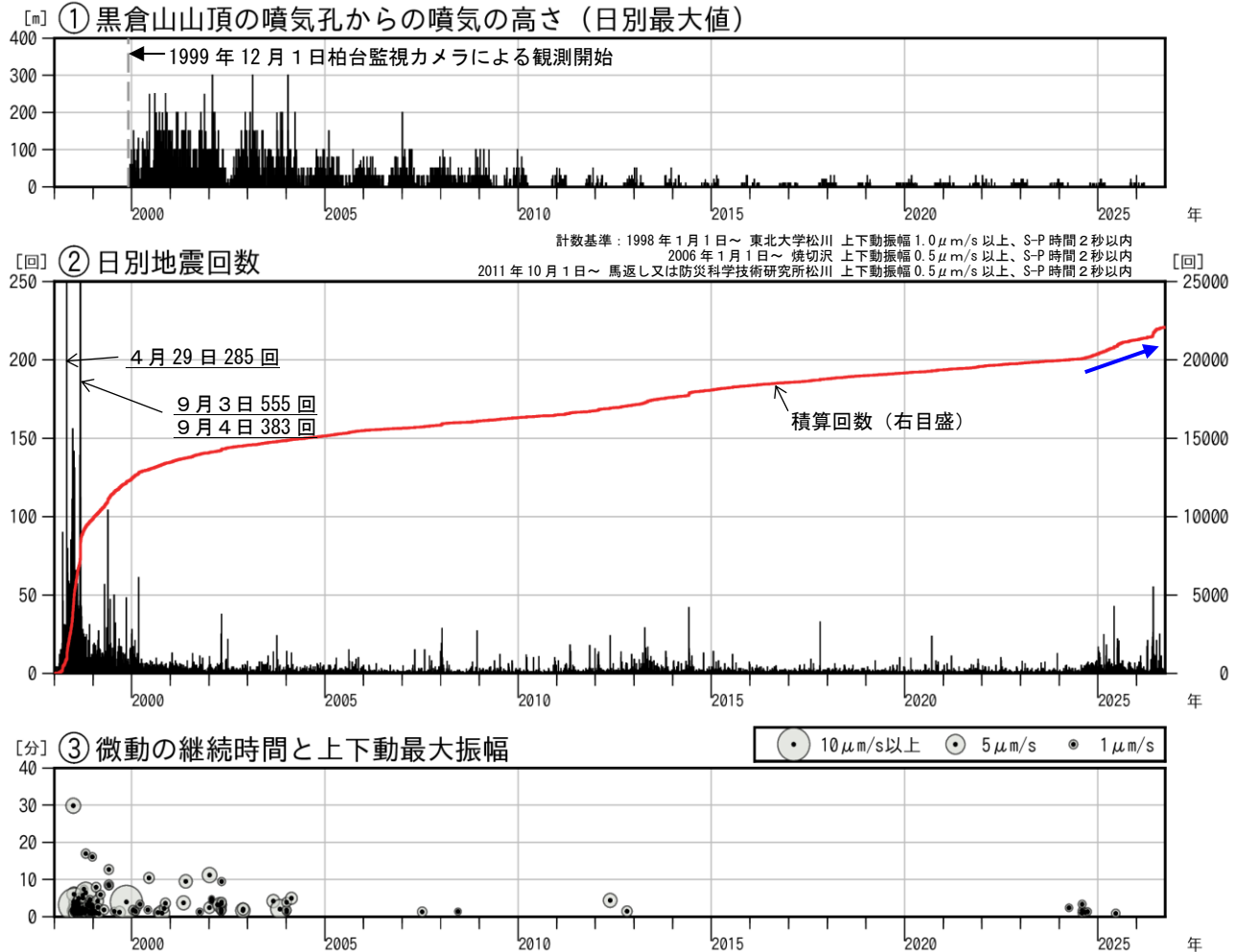


図 1 岩手山 火山活動経過図（1998 年 1 月～2026 年 9 月）

②2000 年 1 月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。

（1998 年から 1999 年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

今期間、黒倉山の噴気活動は低調に経過しました（①）。

火山性地震は 2024 年 7 月頃からやや多い状態で推移していましたが（②青矢印）、2026 年 7 月中旬以降、少ない状態が続いています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした（③）。

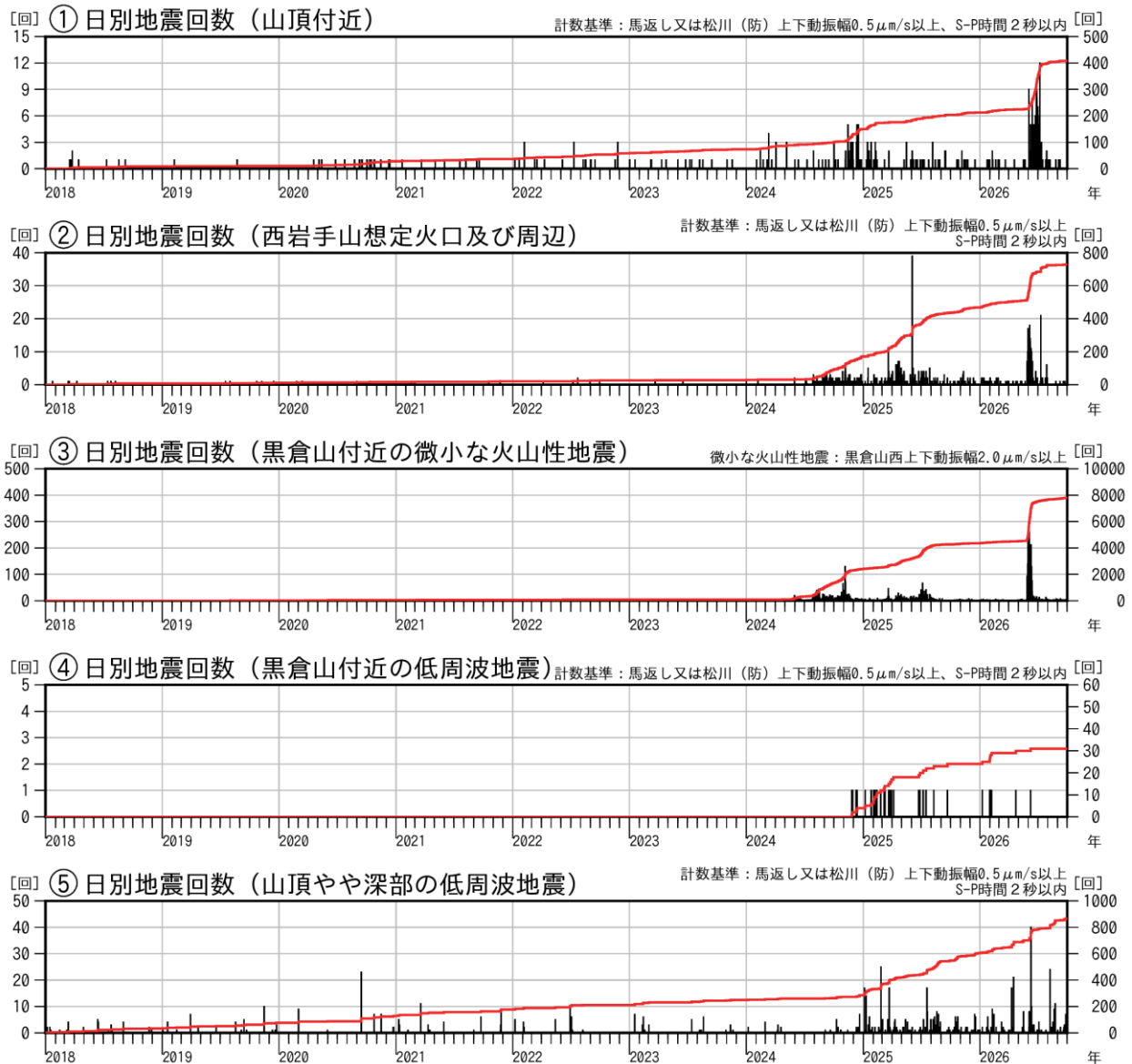


図2 岩手山 日別地震回数（2018年1月～2026年9月）

②西岩手山の想定火口（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level_207.pdf 参照）及びその周辺（図3の橙破線で示す領域）で発生した火山性地震の日別回数を示します。

③西岩手山の想定火口の一部である黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別回数であり、③以外で示す火山性地震の日別回数には含まれません。

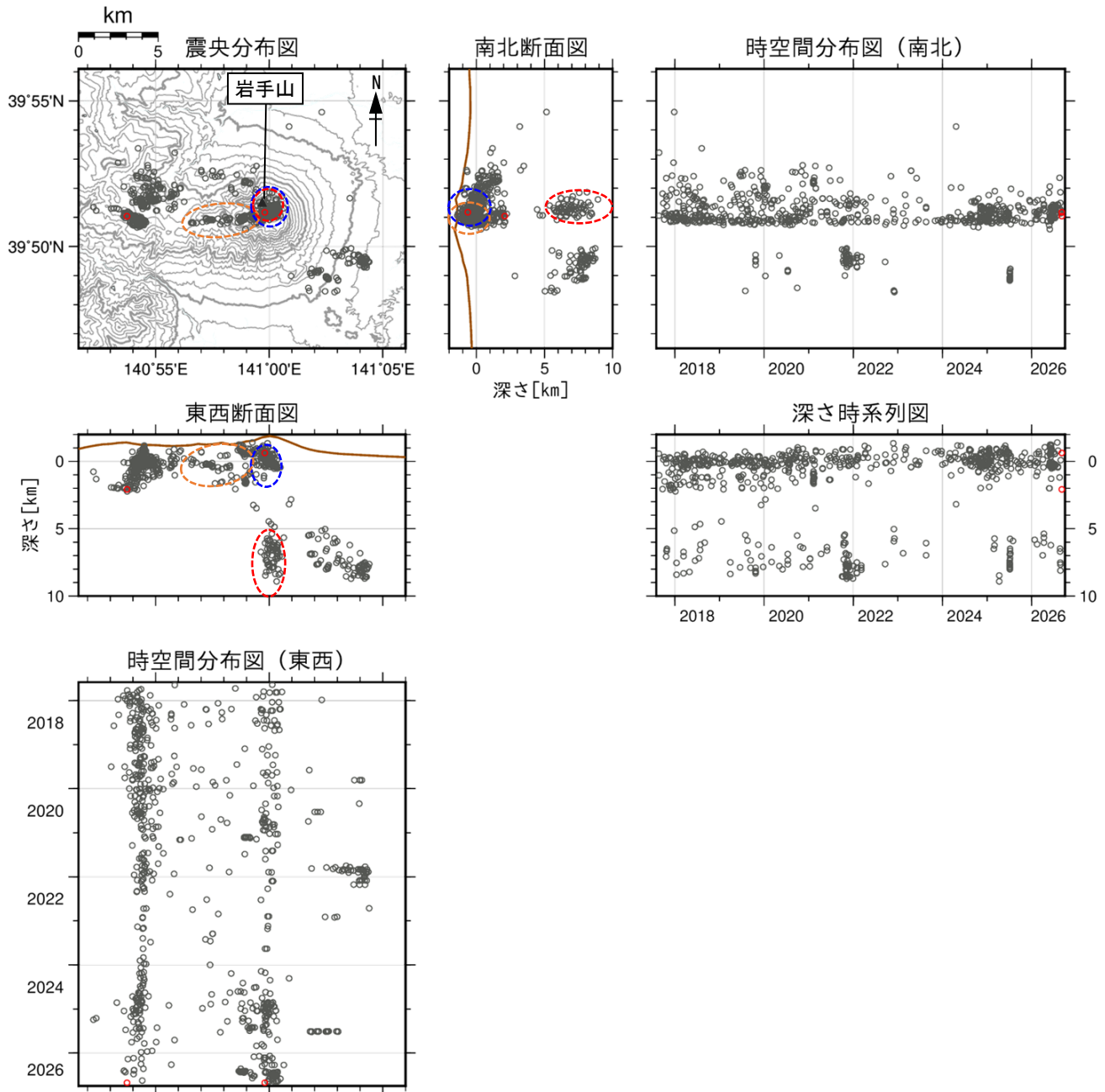
赤線は地震回数の積算（右目盛）を示します。

山頂付近や西岩手山の想定火口及びその周辺を震源とする火山性地震は、7月中旬以降、少ない状態で推移しています（①②）。

黒倉山付近を震源とする微小な火山性地震は、6月13日以降減少しています（③）。

黒倉山付近の低周波地震は、今期間、観測されませんでした（④）。

山頂やや深部の低周波地震は、2024年12月中旬頃から増減を繰り返しながらも発生頻度がやや高い状態で継続しています（⑤）。



○ : 2026 年 9 月 1 日～9 月 30 日 ○ : 2017 年 8 月 1 日～2026 年 8 月 31 日

図3 岩手山 地震活動（2017 年 8 月～2026 年 9 月）

・青破線は山頂付近、橙破線は西岩手山の想定火口及びその周辺で発生する火山性地震のおおよその領域を示します。赤破線の領域は山頂やや深部で発生する低周波地震の震源域を示します。

今期間、震源が求まった火山性地震は2回でした。そのうち、山頂付近に震源が決定された地震は1回、三ツ石山付近では1回でした。西岩手山の想定火口の一部である黒倉山付近に震源が決定された火山性地震はありませんでした。



図4 岩手山 黒倉山監視カメラからの状況（9月6日）

・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）の映像です。

大地獄谷では、6日、18日及び20日に100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね80m以下で経過しました。

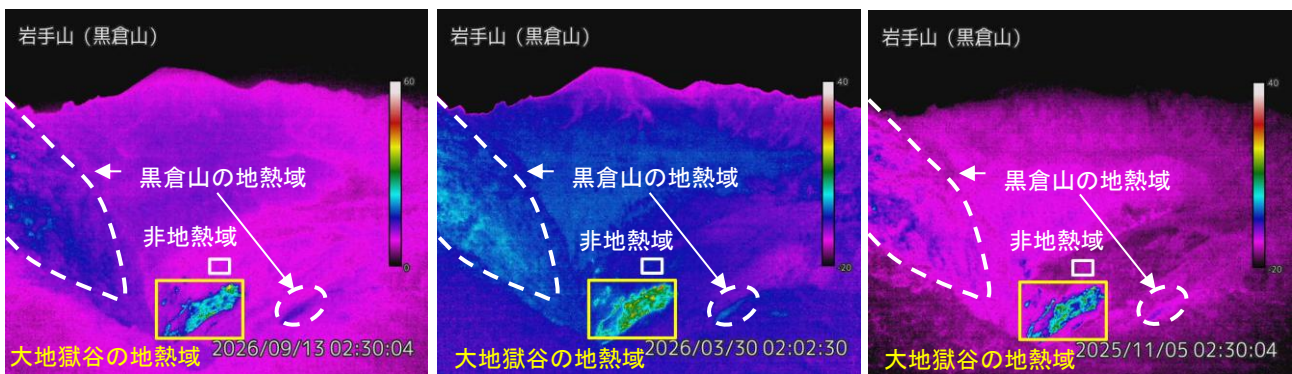


図 5－1 岩手山 黒倉山監視カメラからの地表面温度分布

（2026 年 9 月 13 日、2026 年 3 月 30 日及び 2025 年 11 月 5 日）

- ・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約 500m）で観測された赤外熱画像を示します。
- ・黄色四角と白四角の領域は、それぞれ図 5－2 の解析における大地獄谷の地熱域と非地熱域の領域を示します。

2025 年 11 月の観測結果と比較した場合、大地獄谷では 2026 年 3 月に地熱域のわずかな拡大が確認されましたが、今期間、地熱域のさらなる拡大傾向は認められませんでした。

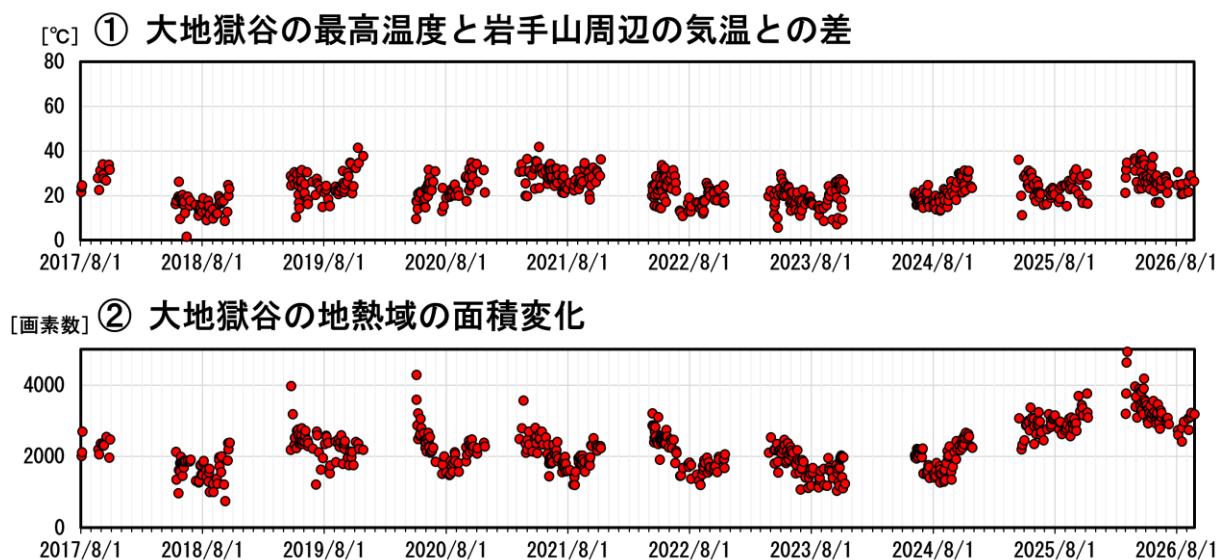


図 5－2 岩手山 黒倉山監視カメラによる大地獄谷の地熱域の経過（2017 年 8 月～2026 年 9 月）

- ・①は大地獄谷の地熱域の最高温度と岩手山周辺（アメダス岩手松尾観測点）の気温との差を示します。
- ・②は大地獄谷の地熱域内で、非地熱域の平均温度よりも 5℃以上高い領域の画素数を示します。

2023 年及び 2024 年と比較して、2025 年 4 月以降、非地熱域より温度が高い領域が増加しています（②）。なお、大地獄谷最高温度と岩手山周辺の気温の差は例年並みで経過しています（①）。

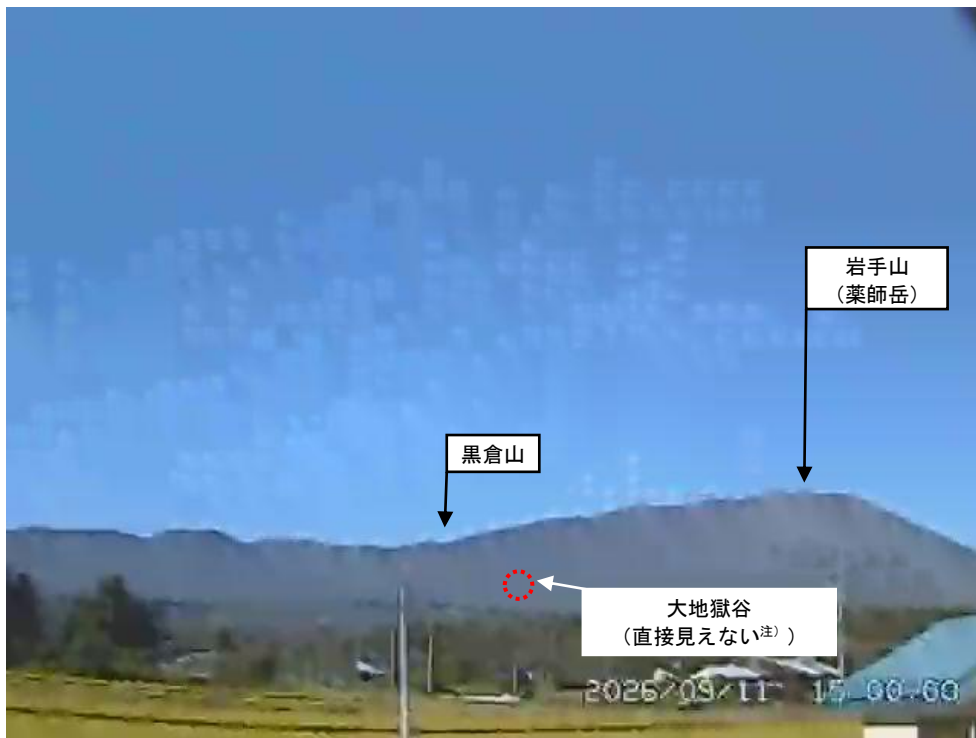
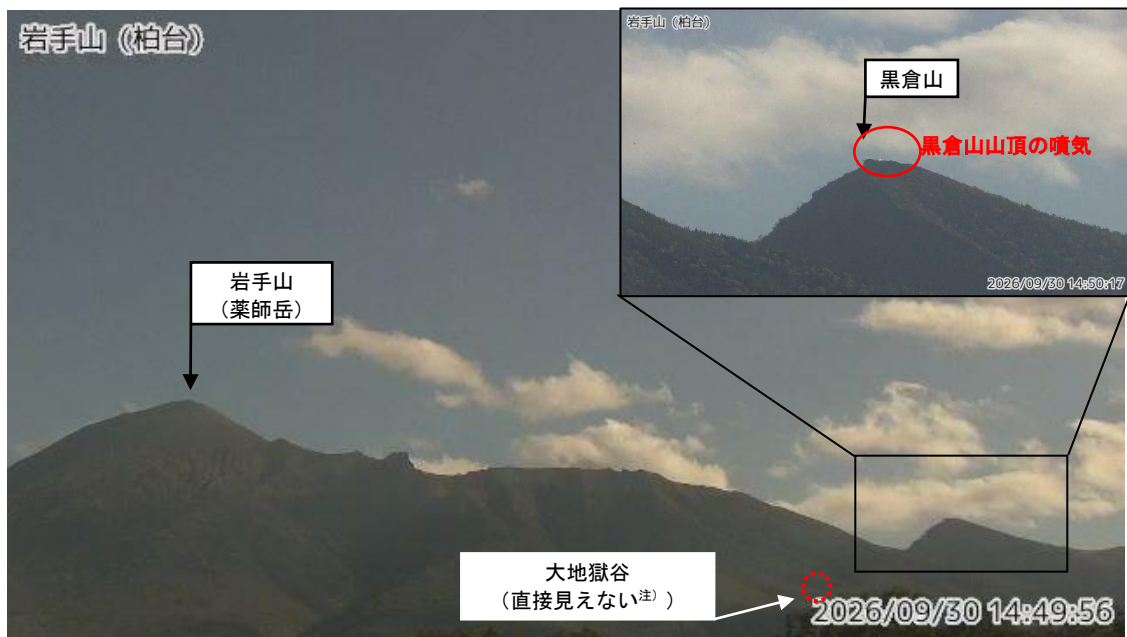


図6 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況

・上図：柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約7km）の映像（9月30日）です。

・下図：長山篠川原監視カメラ（黒倉山山頂の南約9km）の映像（9月11日）です。

注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに観測されます。

赤破線が大地獄谷の位置を示します。

柏台監視カメラ及び長山篠川原監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は30日に一時的に10mを観測しました。岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

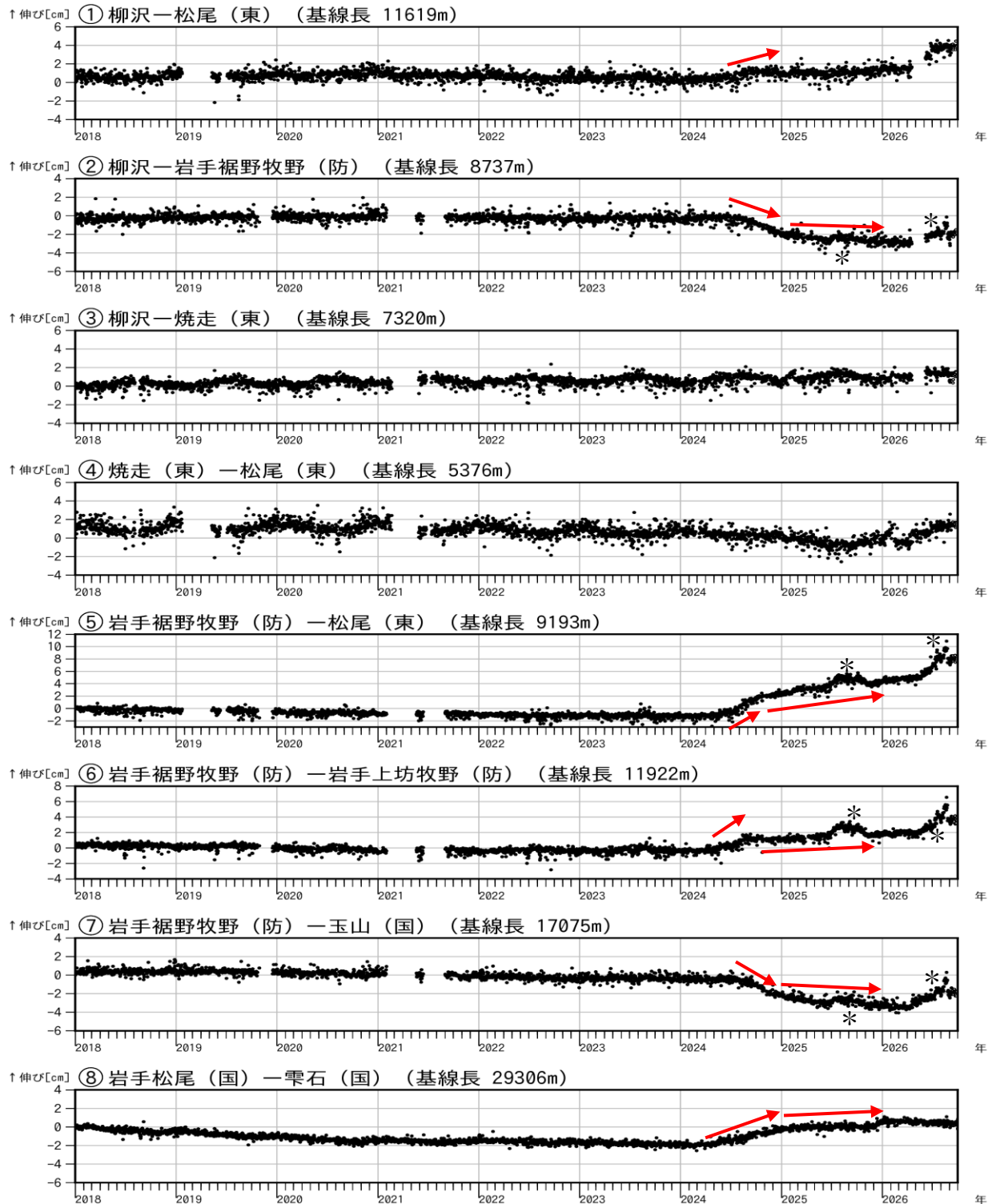


図7 岩手山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年9月）

- ・①～⑧は図10のGNSS基線①～⑧に対応しています。・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学、（防）は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ・基線②、⑤、⑥及び⑦では、*で示すように2025年6月下旬から11月下旬及び2026年5月下旬以降、岩手裾野牧野（防）観測点に起因する変化がみられますが原因は不明です。
- ・2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震や2026年4月20日の三陸沖の地震に伴うステップ状の変化や、地震後の余効変動によると考えられる基線長の変動がみられます。

2024年4月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す基線長の変化は、基線⑤及び⑥で2024年後半から、基線②、⑦及び⑧で2025年以降、鈍化が認められていました（赤矢印）。

また、一部の基線（⑤、⑧）では、2025年12月頃からわずかな伸びの変化がみられていました。

いずれの基線も2026年1月頃から火山活動によると考えられる伸び、または縮みの明瞭な変化は認められません。

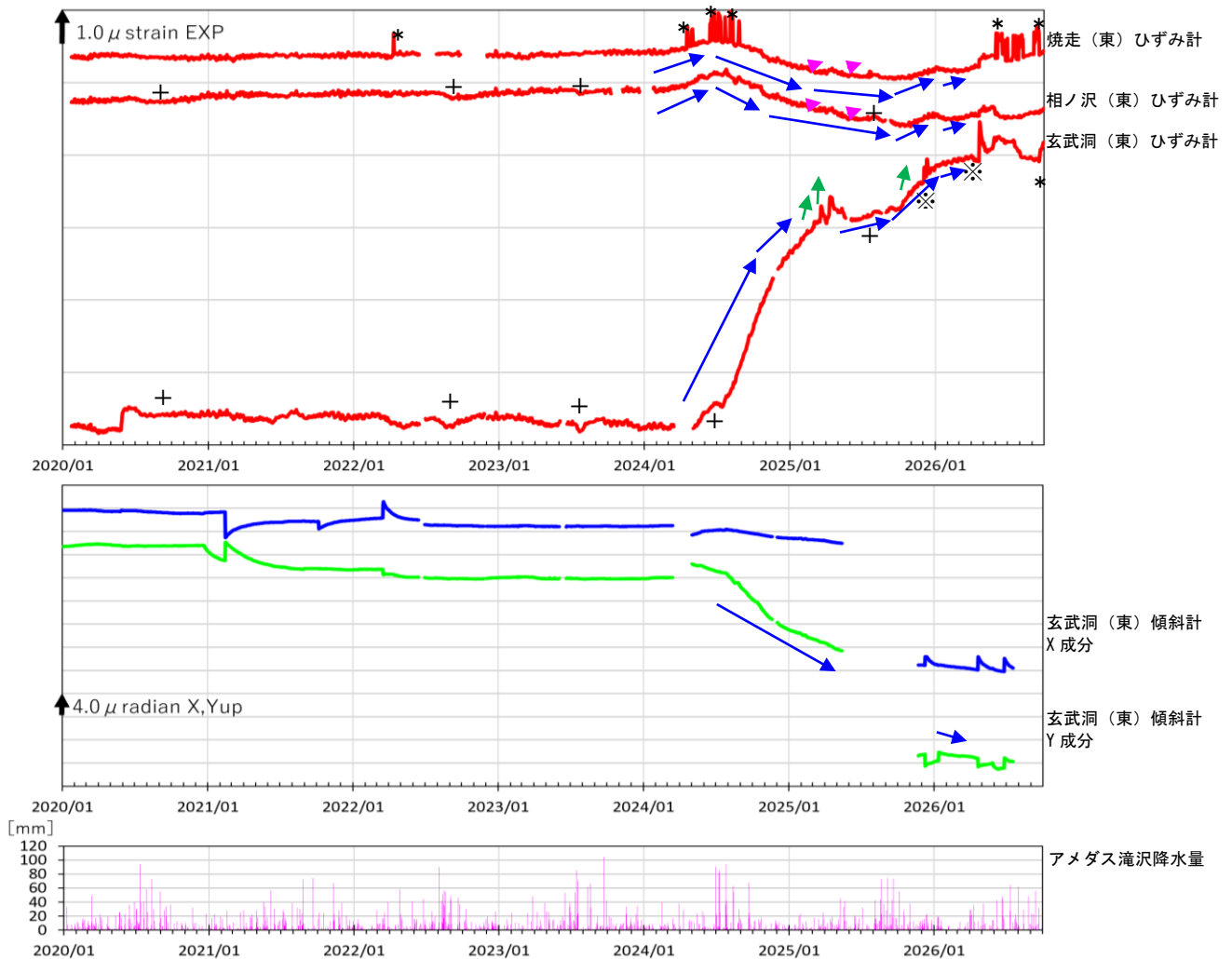


図8 岩手山 ひずみ計・傾斜計（日値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況
（2020年1月～2026年9月）

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（東）は東北大学の観測点を示します。
- ・玄武洞（東）傾斜計のX成分はN43° E方向、Y成分はN133° E方向を正の向きとしています。
- ・焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025年3月中旬から4月上旬と7月中旬から7月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
- ・玄武洞（東）のひずみ計では、2025年3月中旬、4月上旬及び12月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
- *：収録機器の不具合による変動です。※：遠隔地の地震による変動です。
- ＋：降水による影響の可能性がある変動です。

岩手山周辺のひずみ計や傾斜計では、2024年2月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張や山体西側のやや深部の膨張を示す変化（青矢印）が認められていました。これらの変化は2026年4月初め頃から概ね停滞していましたが、5月24日頃から山体膨張を示すと考えられるわずかな変化が再び観測されてきました。この変化は7月下旬以降停滞しています。

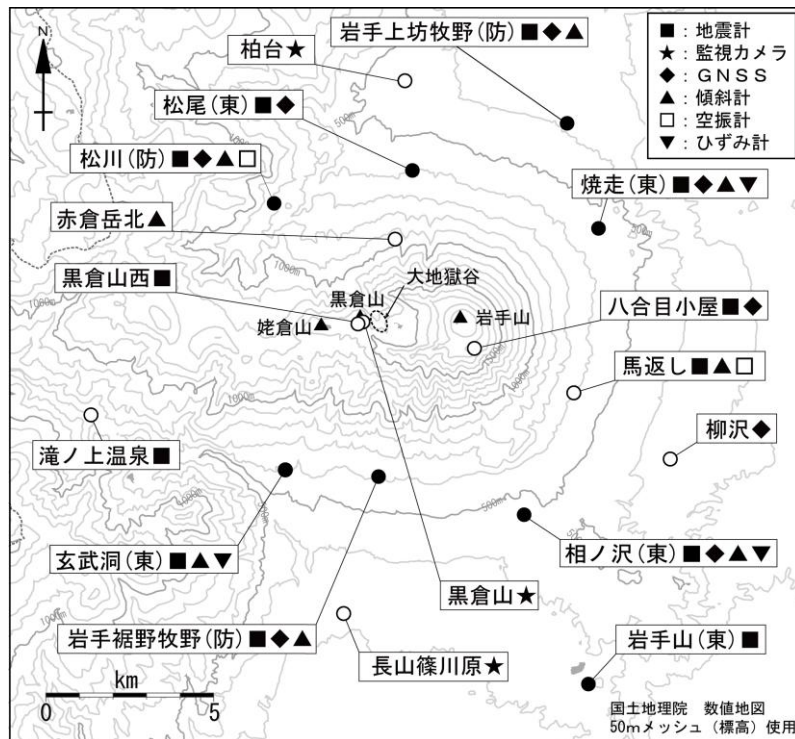


図9 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所

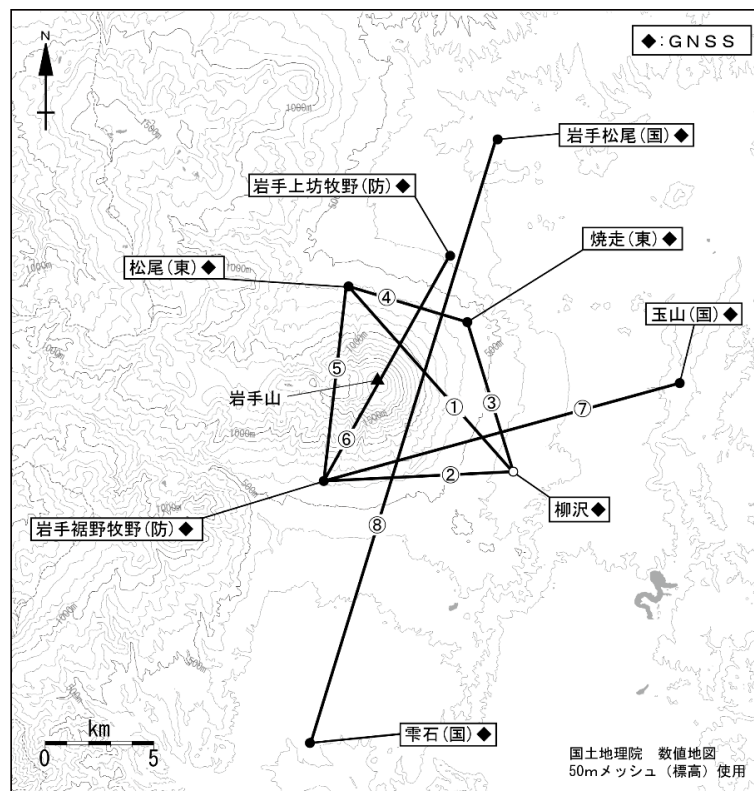


図 10 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学

(防)：防災科学技術研究所